

尿検査

項目	結果	判定	説明
尿蛋白	—～± 1+ 2+～	異常なし 経過観察 要精密検査	腎炎、尿路感染症など腎臓や尿路等の病気が発見される 手がかりになります。高熱が出た時の熱性蛋白尿や起立性蛋白尿、 一過性の過労等で陽性になることもあります。
尿潜血	—～± 1+ 2+～	異常なし 経過観察 要精密検査	膀胱炎、腎臓や尿管の結石など尿の通り道に異常があると、尿の中に わずかに赤血球が混じることがあります。前立腺炎や泌尿器系の癌など でも陽性になることがあります。
尿糖	—～± 1+～ 2+～	異常なし 要再検査 要精密検査	糖尿病、腎性糖尿、甲状腺機能亢進症、クッシング症候群などで陽性に なります。尿糖が陽性でも糖尿病とは限らないため、血糖値などを加味 して判定します。
尿ウロビリノーゲン	±～+ —、2+～	異常なし 要再検査	急性・慢性肝炎や胆管結石など肝臓や胆嚢の異常が疑われます。 診断には血液検査や腹部エコーなどの検査が必要です。